

国際交流センター「Cool Japan Project」 日本の伝統や文化を伝えるイベントを開催

海外から見た日本文化のすばらしさを表現する「Cool Japan (クールジャパン)」。

その良さを留学生や学生にも伝えていこうと、大学の国際交流センターに「Cool Japan Project」が発足。

茶道や書道、踊りなどのイベントを通して日本の伝統文化を発信していきます。



日本のさまざまな文化が外国人に「かっこいいもの」として受け入れられている現象を表現した言葉「Cool Japan」。最近では国内はもちろん、世界中でひとつのキーワードとなっています。金城学院大学では今年、すばらしい日本の文化をもっと留学生や学生たちに知ってもらおうと「Cool Japan Project」を立ち上げてさまざまな体験イベントを企画。これまで

に三味線や琴、書道パフォーマンスや茶道体験会が行われました。イベントに参加したタイからの留学生、ワリンラック・ガーンチャナーパーさんとポロムペーン・アラヤーさんは、書道について「筆使いが難しかったけれど楽しかった」。また茶道は「お茶の味は少し苦かったけれどおいしかった」「日本人のもてなしの心が感じられた」と日本の伝統文化を楽しく体験できた

感想を話してくれました。

10月20日には第4弾として阿波踊りやソーラン節のイベントを開催。名古屋を中心に活躍する阿波踊りのチーム・太閤連による華やかな舞や、大学の国際交流サークルKINGによる勇ましいソーラン節が披露されました。阿波踊りでは太閤連に所属する英語英米文化学科3年の後藤愛里さんが阿波踊りの男踊りや女踊りについて説明。その後、参加者全員で阿波踊りを体験しました。「ヤットサーヤットヤット」のかけ声にのせてみんなで楽しく踊りを体験。留学生の皆さんも「こうやってステップを踏むの?」とうちわを片手に輪になって踊り、今回のイベントも大変な盛り上がりを見せました。



タイからの留学生のワリンラックさん、ポロムペーンさん

プロジェクトの活動を通して 日本を再発見し海外に目を向ける



国際交流センター 中森千佳子センター長(左)と加藤祐子さん

現在、大学では世界7カ国から約30人の留学生を受け入れています。こうした留学生に対して踊りや茶道、

書道や着付けなど、日本の文化を紹介する活動を学生主体で進めていこうと、今回のCool Japan Projectは発足しました。国際交流センターの中森センター長は「活動の主体となるのは国際交流サークルKINGのメンバー。他のサークルや部活、教職員にも呼びかけて毎月もしくは隔月でイベントを行おうと考えています」と話します。これまでに行われたイベントも大盛況、中でも「外国の留学生から見た日本を写真におさめるフォトコ

ンテストがおもしろかったですね」と加藤さん。招き猫や雨の風景など、独特の視点に驚かされるといいます。

今後は能や武道などのイベントも計画。「留学生だけではなく、金城の学生にとっても日本再発見につながります。金城の学生にももっと海外に興味を持ってもらいたいですね」と話す中森センター長。プロジェクトを通して日常的に国際交流を深め、今後も積極的にプロジェクトを進めていきます。

オーストラリアの姉妹校が高校を訪問 国際理解を深め、日本の魅力を伝える文化交流

金城学院のモットーにある「自他の人格の尊重」の精神は、国際交流の場でも生かされています。学院では国際教育の一環として、日本文化を海外へ発信し、相互理解を深めるための様々な取り組みを行っています。



高校では1991年にメルボルンのファーバンク・グラマー・スクール(以下、ファーバンク校)と姉妹校提携を結びました。そのファーバンク校の皆さんが9月19日(日)から29日(水)まで、高校を訪問。今回の訪問は、同校との交流プログラムの一環で、隔年で互いの学校を訪問し合い、それぞれの文化を学びあうことが目的です。

2人の先生の引率で来日した11人の生徒は、国際、書道、茶道、古典や英会話などの授業を一緒に受け、京都や熱田神宮も訪れました。国際の授業では、生徒たちからインタビューを受けたり、オーストラリアの歌やダンスを

披露するなどして、互いの文化への理解を深めました。書道の授業では生徒たちの手ほどきで書道を体験。またファー

バンク校の生徒たちの名前が漢字で書かれたうちわを贈呈。すばらしい記念となりました。

オーストラリアの生徒たちにとって、初めて体験する日本での生活は、新鮮な驚きと発見の連続だったようです。今回のプログラムでさらに日本文化の魅力を伝え、日本への理解を深めてもらうことができました。



ファーバンク生 からの感想文

みんなは名古屋が大好きです。金城に行った事はよかったです!みんなは、オーストラリアに帰る時に、「帰りたい」と言いました。

文化祭も、体育祭も、楽しかったです。たません、もち、タピオカ、フランクフルトと焼きそばはおいしかったです。体育祭のパフォーマンスとゲームと騎馬戦はすごく楽しかったです。

ホストファミリーといっしょの時間はすばらしかったです。私たちは本当に感謝しています。ホストファミリーとの思い出をぜひにわすれませぬ。

私のホストファミリーのお母さんとお婆さんのりょうりはとてもおいしかったです。お父さん、アートセットをありがとうございました。みいちゃんと里奈さん、すつといっしょにすごしてくれて、ありがとうございます。

金城の先生と生徒とホストファミリーに、ファーバンクから、「どうもありがとうございました」と言いたいです!今度はオーストラリアに来てね!

オリビア リー

日本りょうはすばらしかったです。楽しい思い出を作ったり、新しい友だちができたりました。毎日何か新しく楽しい事をしました。時々怖かったです、それだけの価値がありました。

ホストの家族と金城の先生と生徒にかんしゃしています。オーストラリアの生徒の日本語が下手ですから、とくに金城の生徒にお世話になりました。

ほとんどのファーバンクの生徒は日本語のべんきょうをつけます。日本りょうで、日本語の勉強をもっとがんばって上手になろうと思いました。

ジュリア スローン



ESSの部員たちが大学の留学生をしらゆり祭で案内

今年のしらゆり祭では、大学の留学生が高校を訪問。ESS部員の案内で、しらゆり祭を見学しました。例年にも増して国際色豊かなしらゆり祭となりました。招かれたのは中国、韓国、イギリス、アメリカなど27人の留学生。一行は部員たちの案内で屋台や出店を楽しみました。また華道や生け花、合気道に興味を示すなど、日本文化へ

の関心の高さが垣間見られる一面も。案内した1年生の飯谷花奈さんは「YES、NOをはっきりと言う留学生の姿勢を見て、自分の意見をきちんと伝えることは大切だと感じました」と話してくれました。

日本語と英語が入り混じっての交流は、国内ではあまり体験できない貴重なひととき。部員たちにとってはお



ESSの部員がしらゆり祭を案内

もてなしの心と同時に他国の文化や考え方を肌で学ぶ、またとない機会となりました。

生徒一人ひとりがPeace Maker(平和を実現する人)をめざして、さまざまな活動を展開

金城学院中学・高校では、毎日の礼拝をはじめとして、教科学習、Dignityまた学校行事などを通じて、「自立・自律・連帯」できる女性となり、生徒一人ひとりが真のPeace Makerへと近づくことをめざしています。中学校生徒たちの取り組みをご報告します。

名古屋での生物多様性条約第10回締約国会議(以下、COP10)開催に合わせて、生徒会ではCOP10に関係する企画を考え、実施しました。緑のカーテンプロジェクトとして、1年F~1クラス南側にオーシャンブルーを植栽、7月には金城学院大学を訪問しました。現代文化学部情報文化学科の小野知洋教授から、里山保全として行っていることを紹介していただきながら、大学内を散策しました。



COP10パートナーシップ事業「想いでつなごう! COP10おりがみプロジェクト」にも全校生徒で参加し、「一つひとつの命が大切なピース(Piece)」であることを感じました。COP10生物多様性交流ステージで発表する機会も与えられ、多くの方と想いを共有することができました。

夏休みには、今年も3年生がDignityの授業で作成した平和新聞を、戦争と平和の資料館 ピースあいちに展示させていただきました。展示に加えて「15歳の語り継ぐ戦争」をテーマに、演奏・発表し、現代を生きる者として戦争体験を受け継ぐことの大切さを学びました。

生徒会は、YWCAのメンバーとともに止揚学園を訪問、恵愛祭に止揚学園のみなさんをご招待しました。止

揚学園のみなさんとの交流は今年で20回目となり、うれさと笑顔でいっぱいになりました。



フェアトレードへの取り組みやボランティア活動の実施

恵愛祭では、「共に生きる」というテーマでフェアトレードショップ 風's店長の土井ゆき子さんからお話をお聞きしました。フェアトレードコーヒーと紅茶は、昨年に引き続きPTA喫茶室で使用していただきました。各クラス・部活動展示発表と、広島女学院高等学校から「核廃絶! 中高生署名キャンペーン」の依頼を受けて、3年生各クラスの平和に関する展示発表とともに、来場者に向けて署名活動を行いました。12月にはさらに校内署名が行われる予定です。

それだけでなく、フィリピンの教育環境整備や、医療従事者を海外に派遣する活動のために、書き損じハガキや、



使用済み切手の回収を継続的に行っています。また、地域でのボランティア活動においても、多くの方々の支えをいただきながら、生徒たちは成長しています。

校内・学外の活動の中で、生徒一人ひとりが成長しPeace Makerへと近づくことを望んでいます。



秋晴れの空の下 運動会が行われました

幼稚園の運動会は、日頃遊んでいることや年齢別のあつまりで取り組んでいることを競技として取り入れる形で行っています。暑さも和らぎ、体を動かすのには最適なこの時期、どの子にも持てる力をいっぱい使い戸外での活動の楽しさを知り、今まで出来なかったことにも挑戦してほしいと保育者は願いながら一緒に過ごしてきました。

年長児のアナウンスによる呼びかけで運動会の始まりです。まず礼拝をし、健康とお天気を与えられたことを感謝しました。年長児は器具係をはじめ、9種類の係りを全員で担い、頼もしく務めてくれました。初めての運動会を体験した年少児は、年長児が作ってくれたメダルを目指して、名前を呼ばれ元気よく走りました。年中児はかけっこ、玉入れを最後まであきらめず



頑張りました。年長児は大縄、マット取り、リレーに出場しましたが、ここに至るまでには仲間と励まし合ったり、悔しい思いをしたり、くじけそうになったり、何度も何度も挑戦し、笑いと涙とが沢山ありました。そんな日々を一緒に過ごしてきた彼らは勝ち負けを超えた逞しさを感じさせ、観衆に大きな感動を与えてくれました。

